

## 着心地の良い衣服パターン設計 (第3報)

## — 歪ゲージ式2軸センサーの試作 —

文化女大家政○佐藤真知子 池田和子 渡部旬子 宮川由香

目的：着用時の衣服の変形量を歪ゲージ式2軸センサーでとらえることにより、着心地の定量化をはかり、着心地の良い衣服パターン設計の為のパラメータとして有効利用しようとするものである。

方法：そのために考案・試作したセンサーの形状は、図のような変形 $\Omega$ ゲージで薄いリン青銅を加工した4側面に、歪ゲージを貼付したものである。これを衣服パターン設計上基準となる線のタテ・ヨコの布目にセンサーの方向を合わせて縫い留めて、2方向の歪量を計測する。本研究ではジャケットの着心地評価に大きく影響を及ぼす背面の歪量を、試作したセンサーを用いて計測した。背幅にだけ $\pm 2$  cmの差をつけた3種のジャケットをコンピュータ制御による可動マネキン(J I S基本人体寸法9 A R)に着用させ、動作時の歪量を計測した。計測点は、背幅の中央に1点・後ろ袖ぐり底線に2点の計3点とし、表面から表布だけをすくってセンサーを縫い留めた。本歪センサーは、装着時は外方に突出している状態なので動作のじやまにならないよう、また、しわや縮み部分にたたみこまれないように留意する必要がある。

結果：前挙動作時には3計測点のいずれもヨコ方向に伸びをタテ方向には収縮を示した。またパターンに差をつけた背幅の midpoint においては、背幅小より背幅中及び大の方が歪が小さくなっていることを確認した。

